

令和4年度第1回南区地域包括ケアシステム推進会議 議事録

1 日時 令和4年(2022年)10月12日(水) 14時から

2 場所 南区役所 3階 大会議室

3 出席委員(敬称略)

林 茂、宮本 格尚、濱崎 ももよ、今村 和八、神原 ひろ子、高山 いくこ、森 武範(堀田 晃代理)、中熊 フサヨ
上野 幸人、森 拓二、河元 多鶴子、宮澤 矢良、宮部 寿一、重元 弥生、村田 美妃、西堀 拓也、西岡 裕二、
宮本 秀美

欠席委員 吉村 譲二、堤 信泰

4 議事

(1) 南区地域包括ケアシステム推進の経過

(2) 南区における今年度の取組

(3) 協議

(4) その他

5 議事録等(要旨)

○事務局

会議資料の説明

○林会長

皆さまから今後の介護予防のあり方等について、ご意見をいただきたい。

○熊本市社会福祉協議会南区事務所長 今村委員

立場上、様々なこのような会議に出席しているが、特に南区は、キャラクターとかネーミングとかプレゼンの仕方がとてもわかりやすく、地域にも伝わっている。いろんな立場の方が、役所ではない方が人生会議のお話をよくされるので、南区はすごいなと驚いている。

○熊本市8020健康づくりの会南支部 神原委員

林先生の人生会議セミナーは、私が関わっているサロンとか、いろんな会議で、3回、4回ぐらい関わらせていただいている。参加者からは、「先生はご自分の体験を交えて、話していただけるので、とてもわかりやすかったし、メッセージノートもぜひ活用したい。」という意見をいただいている。

○校区自治協議会(城南圏域)宮部委員

南区の民生委員児童委員協議会会長は13名。南区の会長は吉村さんで本日欠席だが、「人生会議に1回出たけど、よかったよ」と言われていた。私も行ってみようかなと思う。

○校区自治協議会(天明圏域)宮澤委員

私には89歳の母がいる。先月このメッセージノートについて、少し親子で話をし、母の気持ちを聞いた。例えば、もし、最期を迎えるのであるなら自宅がいい、延命治療はしてほしくない、してほしくないけど痛いのは嫌だとか、結構具体的に話をすることが出来た。父はもう5年ほど前に亡くなっているが、そのときは病院で、最期、なかなか自分の気持ちを言うことが出来ないような状態だったので、家族としてはできるだけのことをしてあげたいという気持ちがあった。父がどういう思いで逝ったかなというのは、亡くなった後、心の中に残っていた。母が元気であるうちに気持ちを聞けたが、葬儀は家でしてほしいと言ったので、それはそれで大変だと思った。「家族に見守られていたらそれで私は十分よ」という、本人の言葉が今聞けたからよかったなと、娘として思った。これは本当にとっても大事なこと、いいことだということを知りにも伝えていけたらなあと思った。

○校区自治協議会(飽田圏域)河元委員

第1回南区人生会議の日に出席した。ちょうど、夫の具合が悪くなっていて、2月に亡くなった。先生の話とかビデオで見ながら聞いていたが、最期を迎えるということは、本人も大変だったが、看病する周りの者も、その時は必死でわからなかったが、病院の先生から「もう奥さんの力だけではだめだから、病院に入院させてくれ」と言われて、もうこれ以上何も出来ないと思ったとき、ちょっと寂しかったし、もっと何か出来たのではないかなという気持ちもあった。人生会議を見直していろいろ自分なりに考えるが、いろんな面を考えると難しいかなと思う。一人の人生の最期を迎える、病氣と闘うというのもあるし、本人を目の前にしてどこをどうやって支えていけばいいのか、自分もきつくなってくるし、それを考えたら、ますます今からの介護のいろんな手立てをよりよく出来ればいいかなと思っている。

○校区自治協議会(南部圏域)森委員

大変すばらしいケアシステムの推進だと思う。現場レベルというか社協レベル、生活圏レベルでは、まだご存じない方もいらっしゃると思うので、今後、人生会議という言葉をもっと浸透させたり、生活圏レベルでの推進もしていきたいと思っている。

○校区自治協議会(幸田圏域)上野委員

私も後2年で75歳になる。この人生会議、私も資料では見るが、参加もしてないし、このような具体的な話は、私自身も、ほかの役員さんたちもあまり聞いたことがない。非常にいいシステムだと思うが、もう少し各校区の中に入り込んでほしい。1人世帯の方とか、自分でも歩いて行かれるような方が参加できるような取組が出来たら、素晴らしいものになるのではないかなと思う。

○校区自治協議会(富合圏域)中熊委員

夫が90歳になる。先生から聞いたお話をしたところ、夫も我が家で最期を迎えたいという。やはり私も最期まで看取りたいと思う。姉が介護施設に入所したが、施設に入るにしてもしっかり本人の希望を聞くことが大事だなと思った。

○熊本南警察署生活安全課 森委員(堀田委員代理)

ご自宅で亡くなられた時とかは、検視ということになることもある。事件に巻き込まれてないかをみるためだが、こういうものをしてもらえれば、一つの手掛かりになるのかもしれない。そういうことを感じた。

○熊本市食生活改善推進員協議会南支部 高山委員

昨年、第1回南区人生会議の日に出席してとても勉強になった。早速、メッセージノートを夫と話し合ってから書き始めた。友達にも書くのを勧めたら「もう書くの?」と言われた。私の父が64歳で心筋梗塞で急に亡くなったので、何時何があるかわからない。まだ子どもを交えては話してはいるが、とにかく自分の考えでしたいということだけは書き留めておきたいと思う。いろいろ参考になった。

○林会長

今のご意見の中にいろんな要素があったと思う。希望してもなかなか在宅で出来ない理由や、あと警察からあったように、いろいろちゃんとしていないと検視というような状態になる。それを防ぐにはどうしたらいいかということも、地域包括ケアというまちづくり、そして最期まで安心して住み続けられる南区にするためにどうやっていくかということをお客様と検討していきたいと思う。

○熊本市歯科医師会 宮本委員

話を聞くと、いろいろな死の迎え方があって、昨日まで元気だった方がある日突然というのもあるし、病気で長患いしている方もいらっしゃる、元気なうちにちゃんとしとかなないといけないと思う。私の親も85歳くらいでまだ元気が、改めて反省するところ。やはり何時来るかわからないし、突然、判断が必要になったときに備えることが必要。日本人は死というものを宗教感が薄いのと、タブー視するところがあるが、そこを逆に言えばしっかりと見つめることによって人生観が確立されることもあるので、私自身もここで勉強させてもらっている。そのようなかたちで会員にも伝えていきたいと思う。

○まちづくりセンター（飽田）

当センターでは、今年4月に、11月に予定されている第2回人生会議の日の縮小版みたいな形でさせていただき、非常に好評だった。また継続して地域担当としても、いろんな関わり方があろうかと思うので、連携を取りながらやっていきたいと思う。

○まちづくりセンター（天明）

第2回南区人生会議の日を11月12日にアスパル富合で開催とのことだが、前は天明ホールで開催し、地元の方に大変好評だったと聞いている。このイベントの周知を地域に行き、自分の両親等にも紹介したいと思っている。

○まちづくりセンター（南部）

南部まちづくりセンター管内でも、ささえりあ熊本南を中心に地域の会議も3回くらい開催されている。様々な情報交換、情報共有をしながら、地域にもお知らせをしながら進めていきたいと思っている。

○まちづくりセンター（城南）

私も10年くらい前に、高齢介護福祉課におり、久しぶりに地域包括という言葉を目にして懐かしく思っている。やはり、地域づくり、人づくりをこれから進めていく中に、このような内容も情報共有しながら、まちづくりに活かしていきたいと考えている。

○まちづくりセンター（富合）

林会長から、南区全体でメッセージノートとか、終末期医療について考えるきっかけの場所を探しているということで、富合図書館でも、司書と相談して、展示の一角を設けた。このコーナーは人気で、いろんな方が手に取ってそ

して借りて帰られている。11月は「いい医療の日」もあるので、そこに乗じて、お医者様の作家さんの本とかも、これに加えてもっと盛り上げていきたいと考えている。富合の自治会長会があり、その中でもささえりあ富合から、第2回人生会議日の案内をしていただいて、ぜひ参加したいという声もあり盛り上がっていけばなと思っている。

○総務企画課長

私も、平成30年に、健康福祉政策課で同じように地域包括ケアシステムに携わっていた。南区の取り組みについては、少し出遅れていたが、逆に今、先進的に進んでいるかなという思いがある。特に人生会議に関して感銘を受けている。これが広がっていく中で、新しい方に受けていただきながら、いろいろ考えていただくことを私たちも希望しており、まちづくりの一環として協力していきたいと思っている。

○保健子ども課長

昨年度、天明ホールにおいて開催された第1回南区人生会議の日では、当課が所管する、健康ボランティア団体の8020推進員と食生活改善推進員の方に、ブースを開設していただき参加している。また、校区単位の健康まちづくり活動も、私どもの専門職のほうで活動しているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

○保健福祉部長

北区の福祉課にいたが、地域包括ケアシステムの定義が、幅広く、どこから取り組んでいいのかというのが非常に悩ましかったと記憶している。やはり切り口はいくつもあると思う。その中で、南区では、まず、終末期医療あるいは在宅医療を中心にしていきたいというような趣旨で、非常にすばらしい。特に林先生に、音頭をとっていただき安心しているところ。私共としましても、林先生についていながら今後も進めたいと思っており、皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。

○区民部長

私も昨年、天明での第1回南区人生会議の日に参加し、いろいろ考えさせられた。2年前に、私も父を亡くしたが、その時には、父には最期はどうしてほしい、こうしてほしいという、意思を確認をするということが出来なかった。現在、ひとり暮らしをしている母には、こうして欲しいというのを、事前に確認してもらうように、あの手この手でメッセージノートを書いてもらうように仕向けているところ。

○南区長

人生会議の日のイベントについては、各所属長のから話があったので、私から、皆様方に状況をお尋ねしたい。資料20ページに介護予防事業の取組ということで、それぞれの地域で実施されており、登録人数等の記載もある。コロナ禍で有識者の方々から不要不急の外出自粛要請に伴って高齢者の健康が非常に心配されるという状況が指摘をされていたが、ようやくこういった活動も再開出来て、コロナ禍前と比べどのような感じなのか、現場で接していらっしゃるので、状況をお聞かせいただきたい。

○林会長

では、ささえりあの方からお願ひしたい。

○地域包括支援センター（城南）宮本委員

城南圏域においては、全部が再開しているという状況ではない。サロンにおいても、校区、社協主催のいろいろな活動ということで、ぼちぼちというのが現状。ご高齢の方の状態ということにおいては、病状が悪化したという話も聞かすが、その中でご自身ができることをできるだけしているという方もいらっしゃる、二極化してるように感じている。

ささえりあ城南の6人のスタッフで、高齢者全員の方を網羅するのはなかなか難しい状況なので、社協や民児協の方々と一緒に、地域づくりに励んでいる。

○地域包括支援センター（天明）西岡委員

天明校区では、このような活動が、自粛されている。特に、老人会、自治会長さん方の中でも、慎重に検討されている状況。これから、自治協議会の皆様方と協議を図りながら、地域の公民館等で元氣くらぶ等の活動を実施できるような、支援を進めていきたいと思っている。また、コロナ禍での相談内容として、閉じこもりがちになっている方とか、介護保険の申請ケースも、若干、増えてきたような感触がある。コロナ禍も続いているが、感染対策をとりながら、地域活動の支援、通いの場づくりの支援を進めていけたらと考えている。

○地域包括支援センター（飽田）西堀委員

飽田地区も、8月までコロナ感染状況が激しかったので、活動を休止しているところが多く、9月に入りぼちぼち再開、今月になると、元氣くらぶやサロンが再開されると聞いている。元氣くらぶの活動が4か所。飽田の方は、元気な高齢者の方が多く、毎年100名近く高齢者の方が増えているような状況。コロナの影響で、介護保険の要支援の方が、要介護になるという方が増えている。今年度は、熊本城マラソンも開催されるとのことで、飽田地区が、熊本城マラソンのコースに入っており、自治会がまとまって応援に力を入れていらっしゃる。今後、活動が再開されるので、滞りなく続けていかれるように支援していきたい。

○地域包括支援センター（熊本南）村田委員

21ページにくまもと元氣くらぶの活動状況ということで、元氣くらぶ15団体のうち11団体が当圏域のくらぶが登録されている、元氣くらぶに登録していない週1回通いの場を作っている団体もあり、当圏域では35か所の通いの場の団体がある。

地域の皆さんが、活発的に動かれて立ち上げられており、ささえりあは少しの支援で、地域主体の活動が出来ていると思っている。地域支え合い型通所サービスを日吉東と力合校区でも実施しているが、コロナ禍の中で体操だけはされていた。力合校区でアンケートを取り、身体機能は維持できていた。チェックリストで、精神的な落ち込み、メンタル面が、少し弱まっているという結果から、やはり、体操だけでなく皆さんと交流して、お話をしたりとか一緒に活動をすることが必要だということがわかった。それで、9月から交流も再開している。

○地域包括支援センター（富合）重元委員

富合でも、コロナが一番ひどい時はほぼサロンも自粛されていた。その中でも、今年度新たにサロンを発足された地区もある。また地域の悩みを聞きながら、独自に、買物の移動支援の有志のボランティアの方が発足した。何もかもできないという事ではなくて、いろんな困りごとや地域の声を吸い上げながら、何かしないといけないということで立ち上がられて地域の力というのを感じているところ。富合では、元氣くらぶはないが、地域支え合い型通所サービスとして「とみあいば支え合い隊」という団体があり、自粛期間中電話で皆様の体調確認をされて、皆さん声が聞けて少し安心されたりとか、そういう工夫もされていた。ささえりあ富合も協力をして、皆さんがお家にいらっしゃる間に、脳トレの宿題を配布する手伝いをした。繋がりが切れるのではなくて、再開に向けて繋がりがづくりのお手伝いをさせていただいた。また、相談に関しては、なかなか出かけられないということで、転倒や骨折で入院をされ、病院からの相談がとでも増えている状況。介護保険の申請をされて、要介護状態という結果の方が増えているという感じ。また、がんに罹られたとの相談も、かなり増えている。病院に入院をすると面会が出来ないということで、家で見たいという家族や本人の希望があって、家で治療するためにはどうしたらいいとか、そこも含めて相談が増えている状況。コロナ禍の中で一長一短ではないが、自粛で低下をしている部分と、そこから踏ん張って、新たな取組が生まれているというような状況。

○林会長

このように、いろんな地域のことを聞くと、本当に参考になるという感じがした。次年度、どのような形で地域包括ケアを進めていくか、取り組みの参考になるかと思う。

何かご質問等ございますか。

○熊本市歯科医師会 宮本委員

人生会議のイベントが去年もすばらしくて、多分今年も去年以上のものができると思うが、私も土曜日診療で行けない。コロナ禍の中で大人数の所に集まるのも?と思っている高齢者の方もいらっしゃると思うが、録画してYouTube にあげることは出来るのか。

○福祉課長

画像と音声を撮っていただき編集するための業者が決まったので、まずは、動画撮影、そして、YouTube、市のホームページ等に発信していく形で今準備中である。

○熊本市歯科医師会 宮本委員

先ほど紹介のあったサロンとか集いとかも流せる、南区の多くの人に見てもらうのが一番いいと思うので、是非ともよろしく願いたい。

○林会長

去年も一応、録画して市のホームページにアップしたが、音声が悪かったりした。今回はその辺はきちんとしていただいているようなので、ご期待いただきたい。

○熊本県看護協会 濱崎委員

訪問看護ステーションで仕事しているが、このコロナ禍で入院されている末期がんの方が、帰ってこられる。理由は、面会が出来ないからうちで看取りますということ、この2年間の間に看取りの数が倍ぐらいになっている。いつ何が起きるのかわからないというところで、元気な時からみんなで話し合っていた方がいいということ、仕事しながら痛感している。看護協会から、「まちの保健室」のご紹介。南支部では、今年から浄玄寺でも実施するようになった。健康相談、看護介護相談等出来るので皆さんに勧めていただきたい。

○林会長

できるだけ情報共有しながら進めていければと思う。今年度の後半の進め方に関しては、事務局から報告があったような形で進めてよろしいか。

○拍手(賛同あり)

○林会長

11月12日の第2回南区人生会議の日には、是非ともたくさんの人に集まっていたきたいと思う。今回は講演が2つと、寸劇、また、「私の想い」手帳というお薬手帳に入るサイズのを南区独自で今考えており、この日に紹介予定。ロビーでは、パネルの展示、図書館では、命に関わる現場をテーマにした図書の紹介ブースを作ってください、アスパル富合全体で、取り組んでいく行事にしたいと思うし、南区全体の取組だと思う。皆さんよろしく願いたい。議事を終了したので事務局の方にお返りする。

○事務局

熊本市の第一層会議について、区から、代議員1名を選出することになっている。林会長にお願いしたいと思う
がいかがか。

○拍手（賛同あり）

○林会長

了承

○事務局

次回の開催日程は、令和5年3月を予定。詳細は、改めて事務局から御案内させていただく。

以上をもちまして、令和4年度第1回南区地域包括ケアシステム推進会議を閉会とさせていただきます。